

問1 エネルギー保存 $2MgR = \frac{1}{2} 2M V_B^2$
 $V_B = \sqrt{2gR}$

問2 運動量保存 $2MV_B = 2MV + Mv$
 (右向き)
 $-e = \frac{V-v}{V_B-0}$

連立して $V = \frac{2-e}{3} V_B = \frac{2-e}{3} \sqrt{2gR}$ (1.球2) $v = \frac{2}{3}(1+e)\sqrt{2gR}$ (1.球1)

問3 $\frac{1}{2} 2M V_B^2 - (\frac{1}{2} 2M V^2 + \frac{1}{2} M v^2) = \frac{2}{3}(1-e^2) MgR$

問4 点Cでの位置エネルギー ≦ 衝突後の小球1の運動エネルギー とおける

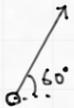
$Mg \cdot \frac{R}{2} < \frac{1}{2} M v^2 = \frac{1}{2} M \cdot \frac{4}{9} (1+e)^2 \times 2gR$

$\frac{1}{2} MgR < \frac{4}{9} (1+e)^2 MgR$ $e > \frac{3}{2\sqrt{2}} - 1 = \frac{3\sqrt{2}-4}{4}$

$\frac{3\sqrt{2}-4}{4} < e \leq 1$

問5 飛び出すときの速さを v_c とすると

$\frac{1}{2} M v_c^2 + Mg \cdot \frac{R}{2} = \frac{1}{2} M \cdot \frac{4}{9} (1+e)^2 \cdot 2gR$ $v_c = \sqrt{\frac{8}{9} (1+e)^2 gR - gR}$



Cを通過した後、鉛直方向は下向き加速度gの放物運動だから

$v_c \sin 60^\circ - gt = 0$

$t = \frac{\sqrt{3}}{2g} \sqrt{\frac{8}{9} (1+e)^2 gR - gR} = \frac{1}{2} \sqrt{\frac{8}{3g} (1+e)^2 R - \frac{3R}{g}}$

問6 運動量保存 $m\sqrt{2gR} = (m+M)v$ $v = \frac{m}{m+M} \sqrt{2gR}$

問7 円筒面に沿った力は $(m+M)g \sin \theta$

問8 左図のようにx軸をとる

鉛直方向の運動について 微小な運動だから、これを無視し、力はつりあっているとする。

鉛直方向 $N \cos \theta = (m+M)g$

水平方向 $(m+M)a = -N \sin \theta$

$= -(m+M)g \tan \theta$

$= -(m+M) \frac{g}{R} x = -(m+M) x \omega^2$

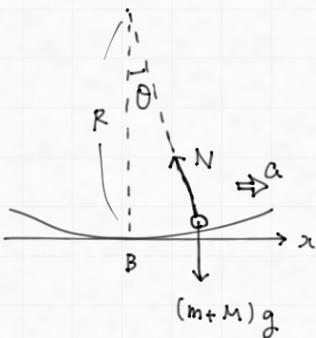
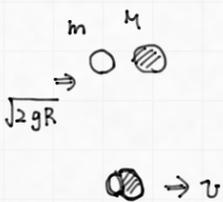
ωは角振動数

$\tan \theta \doteq \frac{x}{R}$ と近似

$\omega = \sqrt{\frac{g}{R}}$ 周期 $T = \frac{2\pi}{\omega} = 2\pi \sqrt{\frac{R}{g}}$

$\frac{1}{2} (m+M) v^2 = (m+M)gR(1-\cos \theta)$ より $\frac{1}{2} \cdot \left(\frac{m}{m+M}\right)^2 2gR \doteq gR \cdot \frac{1}{2} \theta^2$

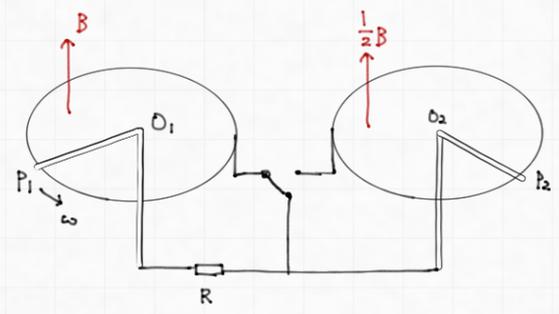
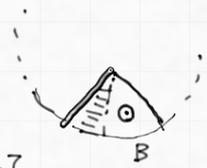
$\theta = \frac{\sqrt{2}m}{m+M}$



2

問1 $\pi r^2 \times \frac{\omega}{2\pi} = \frac{1}{2} r^2 \omega$

問2 $V = B \times \frac{\Delta S}{\Delta t} = \frac{1}{2} B r^2 \omega$

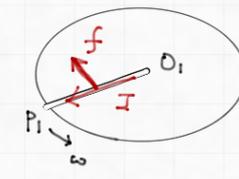


右図のような仮想回路を考えて。

上向き磁束の減少を妨げる向き反時計

まわりの電流を流そうとする向きの起電力 ... $O_1 \rightarrow P_1$

の向きの起電力が発生する。電位が高いのは P_1



問3 $I = \frac{V}{R} = \frac{B r^2 \omega}{2R}$ (A) の電流が流れるため $O_1 P_1$ の中点

に右図 f の力が働く。

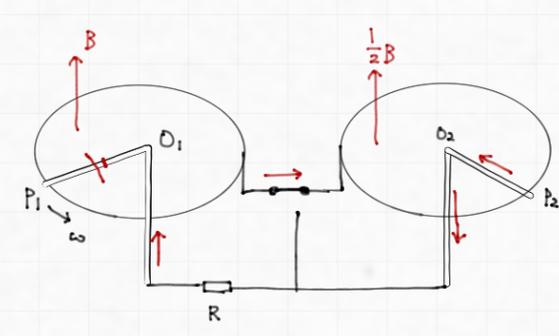
$$f = B I r = \frac{B^2 r^3 \omega}{2R} \quad (N)$$

これと同じ大きさで逆向きの外力を加え続けなければいけない。外力の大きさは $\frac{B^2 r^3 \omega}{2R}$ (N)

問4 $O_1 \rightarrow P_1$ の向きの起電力が発生するのだから。

$P_2 \rightarrow O_2$ の向きの電流が流れる。左手の法則より。

電磁気力の向きは d と取り。



問5 $O_2 \rightarrow P_2$ の向きに $\frac{1}{2} (\frac{1}{2} B) r^2 \omega'$ (V) の誘導起電力が

発生する。流れる電流を I とし。

$$\frac{1}{2} B r^2 \omega - \frac{1}{4} B r^2 \omega' = I R$$

$$I = \frac{B r^2}{4 R} (2\omega - \omega')$$

問6 十分な時間が経って $O_2 P_2$ の角速度が一定と取り、たとき、 $O_2 P_2$ にかかる力は 0 と取り、

それは電流が 0 となっていることを意味しており、問5より、そのとき $\omega_2 = 2\omega$ となっている

抵抗での消費電力は電流が流れていないので 0 (W)

3

問1	過程	熱量	仕事
	A → B	正	正
	B → C	ゼロ	正
	C → D	負	負
	D → A	ゼロ	負

問2 $PV^\gamma = \text{一定}$ および $\frac{PV}{T} = \text{一定}$ より

$TV^{\gamma-1} = \text{一定}$

したがって B → C で $T_H V_B^{\gamma-1} = T_L V_C^{\gamma-1}$

D → A で $T_L V_D^{\gamma-1} = T_H V_A^{\gamma-1}$

$\frac{V_C}{V_B} = \left(\frac{T_H}{T_L}\right)^{\frac{1}{\gamma-1}}$ $\frac{V_D}{V_A} = \left(\frac{T_H}{T_L}\right)^{\frac{1}{\gamma-1}}$ $\frac{V_C V_A}{V_B V_D} = 1$

問3 等温変化なので気体の内部エネルギーは変化していないため、熱力学第一法則より、

気体が取り取った熱量と気体が外部に行う仕事量は等しくなっている。また気体の行う仕事は体積変化と圧力によって決まり、斜線部の面積と等しくなっているため。

問4 $W_{AB} \equiv \frac{P_A + P_B}{2} \times (V_B - V_A) = \frac{1}{2}(V_B - V_A) \left(\frac{RT_H}{V_A} + \frac{RT_H}{V_B} \right) = \frac{RT_H(V_B^2 - V_A^2)}{2V_A V_B} = Q_H$

問5 $| -Q_L | = Q_L = -W_{CD} = \frac{1}{2}(P_C + P_D)(V_C - V_D) = \frac{RT_L(V_C^2 - V_D^2)}{2V_C V_D}$

問6 $e = \frac{Q_H - Q_L}{Q_H} = 1 - \frac{T_L(V_C^2 - V_D^2)V_A V_B}{T_H(V_B^2 - V_A^2)V_C V_D} = 1 - \frac{T_L}{T_H} \times \left(\frac{V_C}{V_D} - \frac{V_D}{V_C} \right) \left(\frac{1}{\frac{V_B}{V_A} - \frac{V_A}{V_B}} \right)$

問2より $\frac{V_A}{V_B} = \frac{V_D}{V_C}$ を代入

$e = 1 - \frac{T_L}{T_H} \times \left(\frac{V_C}{V_D} - \frac{V_D}{V_C} \right) \times \left(\frac{1}{\frac{V_C}{V_D} - \frac{V_D}{V_C}} \right) = 1 - \frac{T_L}{T_H}$

問7 AはPVグラフで (P_A, V_A) で表され、A'は $(P_A \times \frac{P_D}{P_A}, V_A \times \frac{V_D}{V_A}) = (P_D, V_D)$ と表され、

したがってA'とDは一致する。また同様にB'は $(P_B \times \frac{P_D}{P_A}, V_B \times \frac{V_D}{V_A})$ に移されたから。

$P_B V_B = RT_H, P_C V_C = RT_L$ をとて用いて

$P_B \frac{P_D}{P_A} = \frac{RT_H}{V_B} \times \frac{V_A}{RT_H} \times \frac{RT_L}{V_D} = \frac{V_A P_C V_C}{V_B V_D} = P_C$

$V_B \times \frac{V_D}{V_A} = \frac{V_B V_D}{V_A V_C} V_C = V_C$

となるのでB'とCは一致している。A → B, C → Dはどちらも等温変化だから、A' → B'とC → Dは一致する。したがって W_{AB} と $|W_{CD}|$ の比は $1 = \frac{P_D}{P_A} \times \frac{V_D}{V_A}$ となる。つまり

$\frac{P_D V_D}{P_A V_A} = \frac{RT_L}{RT_H}$ なので、 $W_{CD} = -\frac{T_L}{T_H} W_{AB}$ が成り立つ。

よって熱効率 e は $e = \frac{Q_H - Q_L}{Q_H} = \frac{W_{AB} + W_{CD}}{W_{AB}} = \frac{W_{AB} - \frac{T_L}{T_H} W_{AB}}{W_{AB}} = 1 - \frac{T_L}{T_H}$ となる。

